

尊い命 奪われない社会を

子どもの声 聞く大切さ

一時保護経験者 川瀬信一さん

親からの虐待で亡く、かしいと思っていた 職員に「家を出たい」
 になった栗原心愛さんと、自分の家が普通と伝えた。里親の元で
 同じ柏児童相談所に保 護された経験を持つ、周囲には相談できな
 児童自立支援施設の元 教員で、一般社団法人
 「子どもの声からほじ めよう」代表の川瀬信 一さん(36)は、事件後
 「なぜ救うことがで きなかったのか」と自 問した。そして、「自分
 ができることは、子 の声を聞くこと」と
 の考えに至り、活動を 続けている。

そんな暮らしが1変 ったのは小学6年生の 時だった。柏市相模一
 里親の家では、それ までの生活習慣とは大



栗原心愛さんと同じ柏児童相談所に一時保護され、現在は子どもの声を聞く活動をしている川瀬信一さん(柏市川市)、林帆南撮影

行政を補う 団体設立、人材育成も

行政を補う

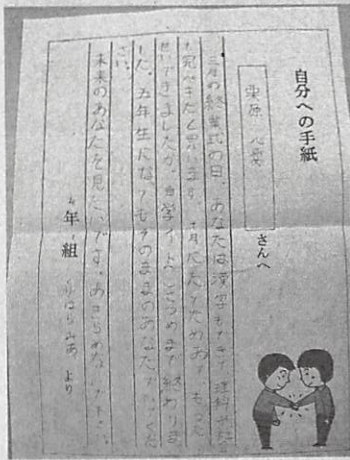
大きく異なり、うまくな 断も受けたが、里親は じむことができなかつ た。約4カ月で一時保 護所に戻り、その後、 児童自立支援施設に移 った。里親が児童養 護施設を選択肢を与え てもらったからこそ、 自己決定する感覚を持 3カ月前、将来の自分 自身に宛てた手紙に つことができた」と振 り返る。

だが、自分の時は助 いです。あきらめない けてくれた里親に、心 愛さんの声は通らなかつ た。事件前、心愛さん には一時保護され、児 相側に「帰らなくていい」と伝えた。医師からは 心的外傷後ストレス障 害(PTSD)との診る 気がはなれなかつ

た。児相職員のマンパ ー不足や一時保護所 の収容定員という構造 的な問題もあり、「一助 待て一時保護される けた」という思いはあ ったのではないかと 考えた。

構造的な問題が生じ ている。東京都江川 区などアドボケイトを 制度として導入し、自 治体では、子どもの 声を聞く活動を受託し できた。

川瀬さんは現在、子 ども家庭庁の参与も務 める。子どもの意見を 一時保護時に反映させ るための態勢整備をす るための国の検討会に も参加した。改正児童 福祉法により、児童養 護施設や一時保護所の 子どもの意見を聞くこ とを努力義務とする制 度が4月から始まる。 だが川瀬さんは「なぜ 彼女(心愛さん)を救 えなかったのか、これ からも追求し続けな ければいけない。子ど もの声を聞く文化にし ていく、社会に定着 させたい」と話す。虐 待により、尊い命が2 度と奪われない社会に したいと誓った。



栗原心愛さんが亡くなる約3カ月前に書いた「自分への手紙」。約5カ月後の終業式の日再び読むはずだった。2020年2月18日、加藤昌平撮影

【林帆南】

野田・児童虐待死から5年

親に対する教育が必要

野田市で2019年1月、小学4年だった栗原心愛さん(当時10歳)が 父親の虐待を受けて死亡した事件から5年となる。全国的に依然と して虐待事件が発生している。自治体や民間の相談窓口を訪れる親の中 には、虐待との認識がないうまま子どもに暴言や暴力を振るっているケ ースも少なくない。専門家らは親のしつけの概念を委ねていく必要がある。行政と 民間が互いに協力し合うことが求められると話す。【近藤敏文、林帆南

NPO法人「友懇塾」井内清満さん

「親に対する教育が必要だ」。こう断言するのは、県内で30年以上、親子の相談支援に取り組み NPO法人「ユース・サポーターセンター」「友懇塾」(千葉市緑区)の 理事長を務める井内清満さん(76)だ。

数年前、長男(21歳)らしをしていく40代男性が、長男が引きこもりで不登校となり、子育てに悩んでいる、と井内さんに相談に来た。不登校の原因を探るため、井内さんが男性に話を聞く、長男に食事を与えなかつ



NPO法人「ユース・サポーターセンター」「友懇塾」の井内清満さん(千葉市中央区)、林帆南撮影

「親に対する教育が必要だ」。こう断言するのは、県内で30年以上、親子の相談支援に取り組み NPO法人「ユース・サポーターセンター」「友懇塾」(千葉市緑区)の 理事長を務める井内清満さん(76)だ。

数年前、長男(21歳)らしをしていく40代男性が、長男が引きこもりで不登校となり、子育てに悩んでいる、と井内さんに相談に来た。不登校の原因を探るため、井内さんが男性に話を聞く、長男に食事を与えなかつ

概念から解放させるのが重要だ」と指摘する。一方で、「行政のハードルが高いのは多い。制度を工夫して運用し、官民の連携を深めながら、子どもと養育者を連携して支援する必要があります」と提言する。

「20も自分の経験を振り返り「虐待する親はそもそも虐待の認識がない」、子育ての方法を知らない場合も多い。身近に親戚や友人がいれば相談することができると、全体的に話さず、心愛さんや事件を知ったときほど、いっしょに話を聞きたい。現在は都内のNPO法人で虐待などから避難してきた人の支援に携わっている」と強調する。親戚や近所との付き合いはなかった。条例やマニュアルで相談体制を拡充するのは大事なことだが、対面支援だけでなく、オンラインチャットなどもっと気軽にできる仕組みが必要ではないか」と感じている。

千葉市は食品ロスを削減しようと、家庭内で手つかずの食品を回収し、必要とする人に提供する「フードドライブ」を実施している。市内の公民館に回収ボックスを設け、2月まで募っている。

「食品回収」

千葉市役所に2023年、千原ボクスル千葉市、で気持ちよくなつてほしい」と話。武蔵さんは「合唱に加わる方、オーケストラの皆さん、聴きに来てくださった方々が、やっぱり